



大学の主人公である学生諸君の 参加・参画を期待する

滋賀大学長 成瀬 龍夫

滋賀大学は教育と経済の二学部構成で、大きい規模とはいえない大学ですが、教育学部は滋賀県師範学校以来百三十年の歴史を有し、多数の学校教員を養成して県内外に送り出してきた実績のある学部です。経済学部は彦根高等商業学校以来八十三年の歴史を有し、「土魂商才」という教育理念のもとで戦前戦後を通じて優れた経済人を世に送り出してきました。また、琵琶湖を抱える滋賀の地に立地する本学は、琵琶湖環境問題に関して国際的に見ても水準の高い研究教育に長い蓄積があります。数多くの先人、先輩たちの努力と活躍のおかげで、本学は今日においても高い社会的評価を維持しており、卒業生の就職もきわめて良好です。学生諸君は、こうした本学の歴史と伝統を誇りをもって受けとめ、勉学に励んでいただきたいと思っています。

滋賀大学は、いま新たな条件の下に大学運営をすすめています。国立大学は平成十六年四月に設置形態が変更され、国立大学法人となりました。この法人化で、大学運営の自由度は大幅に拡大されましたが、同時に自己責任も重くなりました。法人は、平成十六年度から二十一年度までの六年間の中期目標と中期計画を策定し、国からその認可を受けて大学の運営費交付金を交付されるという仕組みになりました。学生諸君の授業料等の納付金は、従来はすべて国庫収入となっていました

が、法人化後は大学の自己収入となっています。

本学が策定した中期目標は、①全学的な教育研究の柱を環境問題におく、②学部の研究教育では、教育学部は「ティーチャーズ・センター」構想、経済学部ではリスク問題に力を入れる、③東アジアの諸大学と環境・リスクをテーマに交流をはかる、という三本柱を掲げています。両学部が教育人と経済人をそれぞれ育成して社会に送り出すという基本的使命は変わりませんが、大学全体ではこうした中期目標・中期計画の実現を追求し、その進捗状況や達成の度合は皆さんのこれからのキャンパス・ライフの充実度や満足度にも大きく影響してくることを申し上げておきます。

以上のような目標をめざす大学運営においては、教職員の努力だけでなく、学生諸君の参加・参画が不可欠であると考えています。大学の教員には教育研究の業務、事務職員には経営管理の業務があります。決して教職員が大学の主人公ではありません。大学は学生のために存在するのであり、学生諸君こそ大学の主人公です。

私は、学長として、大学の教育サービス評価に学生諸君がかかわってもらう機会を増やすとともに、学生諸君がキャンパス・ライフをゆたかにするために創るさまざまな自主的プロジェクトについても、それを支援する機会を増やしていきたいと考えています。